

整理番号 S-21

出 展 織物欠点解析事例集

欠 点 名 たて糸吊り(異常張力)

品 名 交織ストライプポーラ

試料形態 織物

組 織 平

糸 使 い

たて糸: { 白い糸 レーヨン ブライト 100d (S)1000T/m
 { 黒い糸 ポリエステル 150d

よこ糸: 黒い糸 ポリエステル 150d×2

欠点発生状況

黒地に白線の入った交織織物であるが、欠点部分の白線の太さが正常部分に比較して細くなっている。

試料写真



試験結果

(1)撚数測定

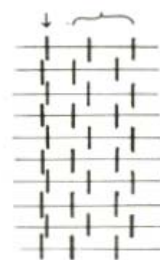
(2)織度測定

(3)織縮み率測定

。経糸（白線：レーヨン糸）比較試験

	正常部分		欠点部分	
撚数(T/m)	S	1129	S	1160
織度(d)				
(1) 撚糸のまま		102.8		102.3
(2) 解撚後		98.5		97.3
織縮み率(%)		21.7	22.3	19.3

欠点 正常



モデル図

(4)マイクロスコープ観察



写真 1. 接写拡大

所見

ポリエステル製の黒地にレーヨン糸を等間隔に配列した交織ストライプポールのたて筋欠点であるが、顕微鏡で観察するとレーヨン糸の配列が悪いことがわかる。即ちモデル図で示すように欠点部分のたて糸(レーヨン糸)2本が恰も1本であるかのように見える。

物性試験の結果、織縮み率に差異が認められた。欠点部分の織縮み率は22.3%と19.3%で、1本のレーヨン糸は正常であるが他の1本が吊っていることがわかる。従って本欠点は1本のレ

一ヨン糸に異常張力がかかり、もう 1 本のレーヨン糸との間隔が狭められたためにたて筋欠点となったものである。
